

図3（前ページ） 諏訪之瀬島 最近の火山活動経過図（2023年10月～2025年9月）

<9月の状況>

- ・噴火に伴う噴煙は、最高で火口縁上1,800m（8月：2,400m）まで上がりました。
- ・爆発の月回数は2回でした（8月：12回）。
- ・弾道を描いて飛散する大きな噴石は、火口中心から最大で約300mまで飛散しました。
- ・火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、1日あたり900～1,800トン（8月：1,500～3,200トン）でした。
- ・諏訪之瀬島の西側で発生していると推定される火山性地震の月回数は6,436回（8月：1,630回）で、前月と比較して増加しました。中長期的には、2024年10月頃から島の周辺において火山性地震の増加傾向がみられています。
- ・御岳火口付近の爆発地震を除く火山性地震の月回数は、319回（8月：129回）で、前月と比較して増加しました。
- ・火山性微動は主に噴火に伴って発生しました。

2024年8月29日から12月3日及び2025年9月10日以降は、寄木カメラ障害のため噴煙の最高高度が観測できていない可能性があります。

火山ガス放出量は噴火の直後に計測した場合、値が大きくなり、噴火の発生前に計測した場合には小さくなる傾向があります。

トンガマ南西観測点の地震計の機器障害により、ナベタオ観測点または御岳南山腹観測点で計数している期間があります。

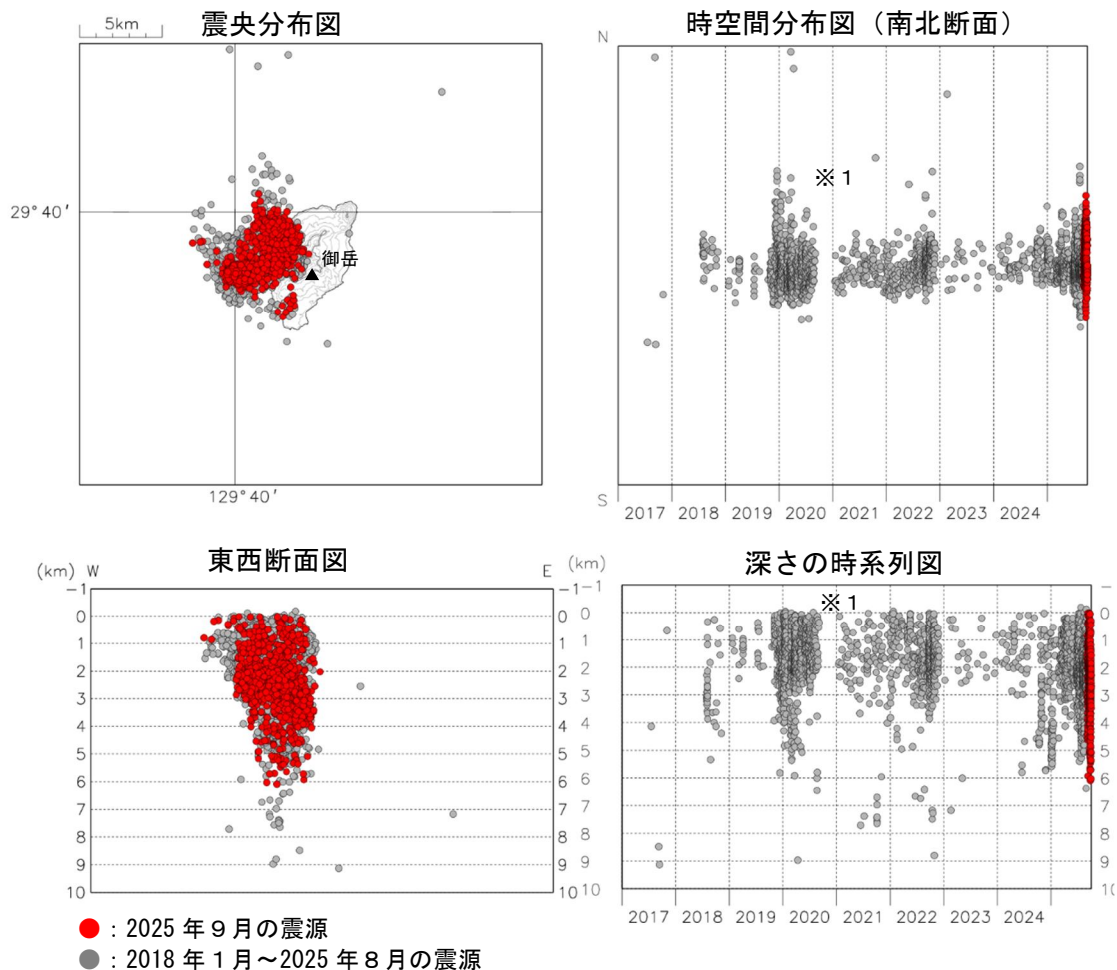


図4 諏訪之瀬島 震源分布図（2018年1月～2025年9月）

<9月の状況>

震源が求まった火山性地震は、御岳火口付近から島の西側の深さ0～6km付近に分布しました。

2018年8月より諏訪之瀬島の震源決定をしています。

※1 2020年9月5日から2021年1月10日まで、一部観測点の障害により検知力や震源の精度が低下しています。

第4回火山調査委員会

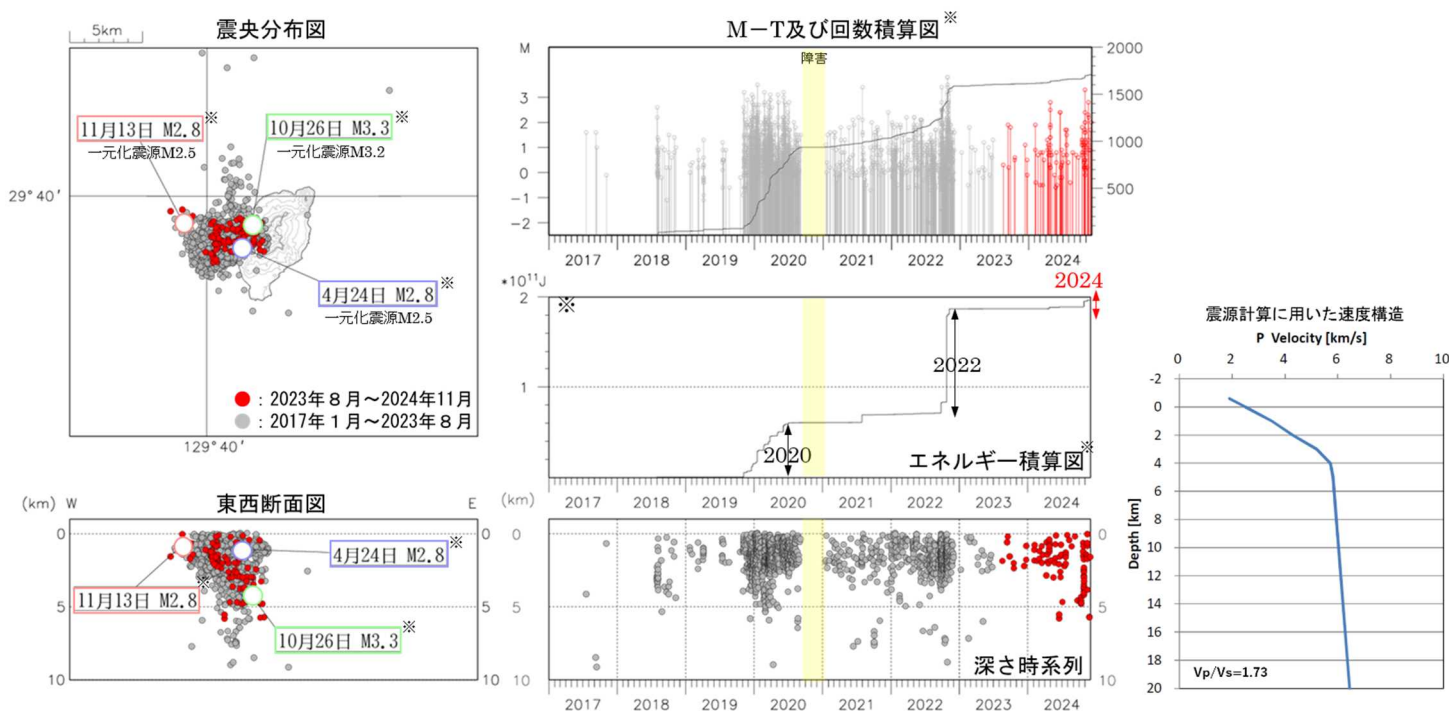


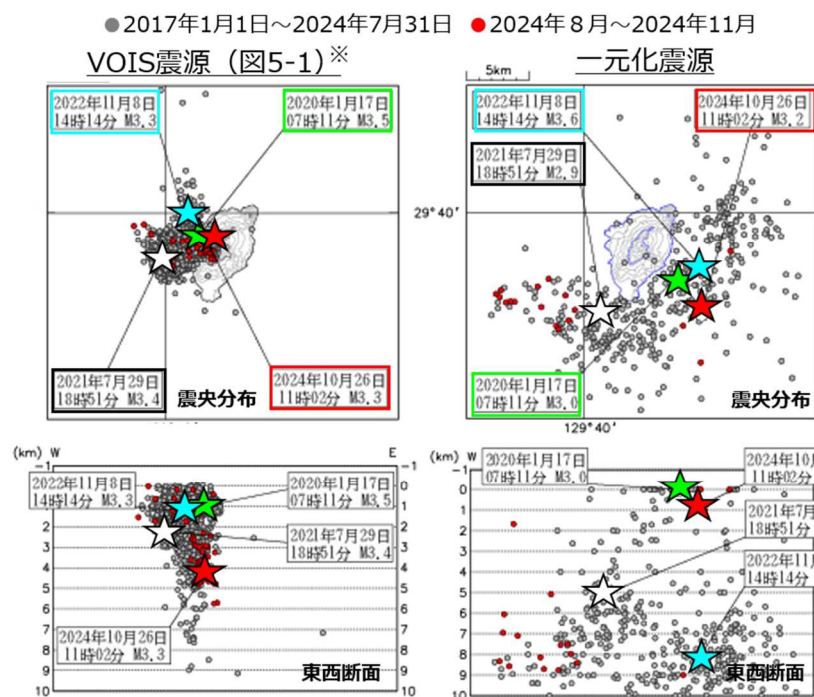
図5-1 諏訪之瀬島 震源分布図（2017年1月～2024年11月）

<2023年8月～2024年11月の状況>

- ・震源が求まった火山性地震（赤色）は、主に御岳付近から島の西側の深さ0～6km付近に分布した。
- ・島の西側の火山性地震は概ね少ない状態で推移しているが、時折一時的な増加がみられた。4月24日、10月26日及び11月13日には、地震が増加し、振幅の大きな体を感じる地震も発生した。
- ・諏訪之瀬島周辺においては、2020年、2022年など火山性地震の活発化が数年間隔で認められる。

2020年9月5日から2021年1月10日まで、一部観測点の障害により検知力や震源の精度が低下

※図中のマグニチュードはhypomh (Hirata and Matsu'ura, 1987) による。



(参考) 諏訪之瀬島 一元化震源と VOIS 震源 (図5-1) ※ の比較

※VOIS 震源は hypomh (Hirata and Matsu'ura, 1987) による。

一元化震源の検知能力等については、資料末尾の「気象庁資料に関する補足事項」の2. 一元化震源の利用についてを参照。